

2012 国際協同組合年



2012年は、国連総会の決議に基づく初めての「国際協同組合年(International Year of Co-operatives: IYC)」でした。各国政府や協同組合関係者等は、この国際年を契機として、協同組合の活動を一層推進し、社会・経済の発展に対する貢献への認知度を高める取組みを進めました。

国際協同組合年(IYC)スローガン
Co-operative Enterprises Build a Better World
協同組合がよりよい社会を築きます

IYCの背景～各時代を支える「協同」の精神

世界で最初に誕生した協同組合は、1844年、イギリスのロッヂデール公正先駆者組合、その後、19世紀にはドイツ、デンマーク、フランスで、一方、日本では江戸時代末期から農村協同組合が各地で設立されました。各時代を通じて、協同組合は地域社会に根差し、人々による助け合いを促進することで生活を安定化させ、地域社会を活性化させる役割を果たしています。

近代においても協同組合は力を発揮し、特に国連は、協同組合が地域経済に根差し、経済システムに安定性をもたらしたことを高く評価しました。こうした背景から国連は、協同組合がより良い経済・社会の建設に大きく貢献できると評価し、その発展を期するよう各国政府・国民に訴えるため、国際協同組合年(IYC)を定めました。

日本の協同組合

協同組合は、民主主義を基礎とした事業運営や活動を通じて、経済的・社会的な側面で、日本社会でも、人々の生活の向上とその解決を大きく助ける役割を担っています。安全・安心で豊かな食品と生活に役立つ日用品の生産および提供。地域の豊かな暮らしと経済活動のために寄与する金融事業。総合的な暮らしの保障のための共済事業。健康な日常生活を営むための医療・福祉事業のほか、広く地域社会に貢献するためのさまざまな社会

国際協同組合同盟(ICA)とは

ICAは、1895年ロンドンに設立された世界の協同組合の連合組織であり(現在の本部:ジュネーブ)、世界各国の農業、消費者、信用、保険、保健、漁業、林業、労働者、旅行、住宅、エネルギー等あらゆる分野の協同組合の全国組織が加盟しています。2012年3月現在、ICAの加盟組織は96カ国 266団体、傘下の組合員は世界全体で10億人を超え、世界各国に協同組合運動を広げ、協同組合の価値・原則の普及と協同組合間の国際協力の促進、世界の平和と安全保障への貢献等を目的として、情報発信、国際会議・セミナー等の開催、国連機関等への提言・意思反映活動等に取り組んでいます。

的取組みなどがそれらの一例となります。

そして、地震や風水害などによる大規模災害が発生した際にも、各協同組合が物資の支援、ボランティアの派遣、募金活動など、さまざまな取組みを展開することにより、被災地域の復興支援に大きな役割を果たしてきました。

このように協同組合は、日本の社会と地域の人々の暮らしのために、長年にわたって多くの分野でその役割を發揮してきているのです。

協同組合活動の認知度の向上

日本では、2010年8月4日に2012国際協同組合年全国実行委員会が発足し、協同組合の価値や役割等について国民への認知度を高め、協同組合運動を促進する活動に取り組んでいます。

日本の2012国際協同組合年キックオフイベント開催

2012年1月、東京都渋谷区の国連大学で、2012国際協同組合年(IYC)全国実行委員会の主催のもと、日本でのIYCキックオフイベントが開催されました。会場には、協同組合関係者やIYC実行委員の方々をはじめ政府やメディア関係者など、定員いっぱいの約350人も参加者で溢れました。

IYC全国実行委員会事務局長によるIYCの概要報告のほか、各県(福島・広島・福岡)での実行委員会の取組紹介やパネルディスカッションなどが行われました。



国際協同組合デー記念中央集会

2012年7月、なかのZEROホール(東京都)において、約1,000名の協同組合関係者参加のもと、IYC全国実行委員会代表の内橋克人氏の講演や、協同組合地域貢献コンテストの表彰、小林正弥氏(千葉大学大学院教授)による協同組合白熱教室(協同組合の社会的役割に関する集团的討論会)を行いました。



写真提供:JA全中



協同組合パンフレット

協同組合フェスティバル

2012年11月、大宮ソニックシティ(埼玉県)において、多彩な活動を展開している協同組合が一堂に得意分野を持ち寄り、協同組合の活動を紹介するなど、さまざまなイベントが実施されました。各協同組合のブース出展による試食・販売や、尾木直樹さん(尾木ママ)や生協の白石さんのトークショーなどを行い、約3,000名の方々にご参加いただきました。



写真提供:JA全中



ICA-AP(アジア太平洋)集会

2012年11月、神戸国際会議場(兵庫県)において、海外・国内の協同組合関係者500名参加のもと、日本および海外における災害発生時の取組報告や、パネルディスカッション、IYC全国実行委員会代表の内橋克人氏、国連人道問題調整事務所神戸事務所長の渡部正樹氏の基調講演などが行われました。

学習交流会

IYC全国実行委員会では、TPP・エネルギーおよび環境等をテーマとした学習会を有識者や協同組合関係者を招聘し、これまでに5回開催しました。自由闊達な議論がなされ、理解促進に役立っています。

県域実行委員会の取組み

44県の県域で県域実行委員会等が組織されるなど、全県域において、多彩な取組みが進められました。

県域の取組みを分類すると、①国際協同組合年であることを契機に、改めて対外的に情報発信し、協同組合に対する理解を深める取組み（一般向けイベント、書籍の発行、大学での講座の提供など）、②協同組合役職員・組合員が協同組合の意義について学ぶ場の設定（連続勉強会、シンポジウムなどの開催）、③異種の協同組合

が連携したからこそ可能な新たな取組み（被災地で生産された農林水産物の販売・消費を通じた一次産業支援など）となります。

当金庫も協同組合の一員として、パンフレット・バッジ等の全職員への配布やディスクロージャー誌等の媒体を通じた情報発信、全国・県域実行委員会主催のイベントへの参画・ブース出展等、積極的に取り組みました。



協同組合フェスティバル in あきた



2012国際協同組合年協同組合まつり
(栃木県)



2012国際協同組合年フェスティバル
in おかやま～絆・希望・未来～



協同組合フェスティバル(香川県)



2012国際協同組合年くまもと記念祭



IYC沖縄実行委員会設立記念講演会

IYC記念全国協議会発足

IYC全国実行委員会は、国際協同組合年(2012年)の終了をもって解散しました。

IYC全国実行委員会は、大きな成果を挙げたものの、その掲げた目的の達成に向けては継続した取組みが必要であるとの認識を示しました。そこで、IYC全国実行委員会に参加していた協同組合全国組織は、この成果

を引き継ぎ、より発展させるため2013年5月9日に「国際協同組合年記念協同組合全国協議会(略称:IYC記念全国協議会)」を発足させました。

IYC全国実行委員会が掲げた目的を引き継ぎ、これまでの成果と課題を踏まえて活動することが期待されています。